

令和05年度

全体貸借対照表

(令和06年03月31日現在)

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	15,153,475	固定負債	1,400,521
有形固定資産	15,340,073	地方債等	1,101,890
事業用資産	8,836,853	長期未払金	-
土地	2,770,218	退職手当引当金	177,111
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	15,360,078	その他	121,521
建物減価償却累計額	△9,671,059	流動負債	340,343
建物減損損失累計額	-	1年内償還予定地方債等	225,446
工作物	659,189	未払金	-
工作物減価償却累計額	△278,752	未払費用	-
船舶	-	前受金	-
船舶減価償却累計額	-	前受収益	-
船舶減損損失累計額	-	賞与等引当金	67,760
浮標等	-	預り金	47,137
浮標等減価償却累計額	-	その他	-
航空機	-		
航空機減価償却累計額	-	負債合計	1,740,865
その他	△2,502	【純資産の部】	
その他減価償却累計額	△320	固定資産等形成分	20,011,182
建設仮勘定	-	余剰分(不足分)	1,613,919
インフラ資産	6,071,480	他団体出資等分	-
土地	97,926		
建物	928,194		
建物減価償却累計額	△174,374		
工作物	15,899,374		
工作物減価償却累計額	△10,784,454		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	104,814		
物品	1,220,942		
物品減価償却累計額	△789,202		
無形固定資産	45,778		
ソフトウェア	45,778		
その他	-		
投資その他の資産	△232,376		
投資及び出資金	116,602		
有価証券	-		
出資金	116,402		
その他	200		
長期延滞債権	187,870		
長期貸付金	-		
基金	△533,924		
減債基金	-		
その他	△533,924		
その他	-		
徴収不能引当金	△2,924		
流動資産	8,212,491		
現金預金	1,293,784		
未収金	232,398		
短期貸付金	-		
基金	6,451,474		
財政調整基金	6,373,464		
減債基金	78,010		
棚卸資産	-		
その他	250,726		
徴収不能引当金	△15,892		
繰延資産	-		
資産合計	23,365,966	純資産合計	21,625,101
		負債及び純資産合計	23,365,966

令和05年度

全体行政コスト計算書

自 令和05年04月01日

至 令和06年03月31日

(単位:千円)

科目	金額
経常費用	5,897,874
業務費用	3,260,982
人件費	862,301
職員給与費	738,584
賞与等引当金繰入額	8,058
退職手当引当金繰入額	-
その他	115,659
物件費等	2,342,684
物件費	1,861,829
維持補修費	1,671
減価償却費	471,952
その他	7,231
その他の業務費用	55,996
支払利息	19,521
徴収不能引当金繰入額	1,366
その他	35,109
移転費用	2,636,892
補助金等	2,065,039
社会保障給付	233,636
その他	338,217
経常収益	446,696
使用料及び手数料	300,042
その他	146,654
純経常行政コスト	5,451,178
臨時損失	-
災害復旧事業費	-
資産除売却損	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	-
資産売却益	-
その他	-
純行政コスト	5,451,178

令和05年度

全体純資産変動計算書

自 令和05年04月01日

至 令和06年03月31日

(単位:千円)

科目	合計	固定資産等形成分		
		固定資産等形成分	余剰分(不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	21,162,601	20,137,166	1,025,435	-
純行政コスト(△)	△5,451,178		△5,451,178	-
財源	5,913,993		5,913,993	-
税収等	4,496,661		4,496,661	-
国県等補助金	1,417,332		1,417,332	-
本年度差額	462,815		462,815	-
固定資産等の変動(内部変動)		△125,669	125,669	
有形固定資産等の増加		346,283	△346,283	
有形固定資産等の減少		△471,952	471,952	
貸付金・基金等の増加		-	-	
貸付金・基金等の減少		-	-	
資産評価差額	-	-		
無償所管換等	△315	△315		
他団体出資等分の増加	-			-
他団体出資等分の減少	-			-
その他	-			-
本年度純資産変動額	462,500	△125,984	588,484	-
本年度末純資産残高	21,625,101	20,011,182	1,613,919	-

令和05年度

全体資金収支計算書

自 令和05年04月01日

至 令和06年03月31日

(単位:千円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	5,416,497
業務費用支出	2,779,605
人件費支出	854,244
物件費等支出	1,870,732
支払利息支出	19,521
その他の支出	35,109
移転費用支出	2,636,892
補助金等支出	2,065,039
社会保障給付支出	233,636
その他の支出	338,217
業務収入	5,222,992
税金等収入	4,420,532
国県等補助金収入	355,764
使用料及び手数料収入	300,042
その他の収入	146,654
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	1,061,568
業務活動収支	868,063
【投資活動収支】	
投資活動支出	1,049,097
公共施設等整備費支出	409,798
基金積立金支出	639,299
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	270,230
国県等補助金収入	-
基金取崩収入	270,230
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	-
その他の収入	-
投資活動収支	△778,867
【財務活動収支】	
財務活動支出	254,882
地方債等償還支出	254,882
その他の支出	-
財務活動収入	309,100
地方債等発行収入	309,100
その他の収入	-
財務活動収支	54,218
本年度資金収支額	143,414
前年度末資金残高	1,103,233
本年度末資金残高	1,246,648
前年度末歳計外現金残高	49,845
本年度歳計外現金増減額	△2,709
本年度末歳計外現金残高	47,137
本年度末現金預金残高	1,293,784

注記

1 重要な会計方針

(1) 有形固定資産等の評価基準及び評価方針

- ① 有形固定資産・・・・・・・・・・・・・・・・取得原価
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
 - ア 昭和59年度以前に取得したもの・・・・・・・・再調達原価
ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。
 - イ 昭和60年度以後に取得したもの
取得原価が判明しているもの・・・・・・・・取得原価
取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達原価
ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。
- ② 無形固定資産・・・・・・・・取得原価
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
取得原価が判明しているもの・・・・・・・・取得原価
取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達原価

(2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的の有価証券・・・・・・・・該当事項なし
- ② 満期保有目的以外の有価証券・・・・・・・・該当事項なし
- ③ 出資金
 - ア 市場価格のあるもの・・・・・・・・該当事項なし
 - イ 市場価格のないもの・・・・・・・・出資金額

(3) 有形固定資産等の減価償却の方法

- ① 有形固定資産（リース資産を除く。）・・・・・・・・定額法
なお、主な耐用年数は以下のとおりです。
 - 建物 13年～50年
 - 工作物 10年～75年
 - 物品 3年～30年
- ② 無形固定資産（リース資産を除く）・・・・・・・・定額法
（ソフトウェアについては法定耐用年数（5年）に基づく定額法によります）
- ③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産（リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万以下のファイナンス・リース取引を除きます）。
 - ・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却と同一の方法

(4) 引当金の計上基準及び算定方法

- ① 徴収不能引当金
債権の不能欠損による損失に供えるため、過去5年間の平均不能欠損率、徴収不能見込額を計上しています。
- ② 退職手当引当金
職員に対する退職手当の支給に供えるため、当年度末における退職手当自己都合要支給額に相当する額を計上しています。
- ③ 賞与等引当金
翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の支払に供えるため、当期対応見込額を計上しています。

(5) リース取引の処理方法

- ① ファイナンス・リース
通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。
- ② オペレーティング・リース取引
通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(6) 資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物。なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(7) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

物品及びソフトウェアの計上基準

物品については、取得価額又は見積価格が50万円（美術品は300万円）以上の場合に資産として計上しています。

ソフトウェアについても物品の取扱いに準じています。

2 重要な会計方針の変更等 該当ありません。

3 重要な後発事象 該当ありません。

4 偶発債務 該当ありません。

5 追加情報（財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項）

(1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事業

① 対象範囲

全体財務書類の連結対象範囲は次のとおりです。（全部連結）

一般会計

国民健康保険特別会計

介護保険特別会計

介護予防支援事業特別会計

後期高齢者医療特別会計

下水道特別会計

簡易水道特別会計

観光施設特別会計

② 表示金額単位

千円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

③ 出納整理期間

地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払当を終了した後の係数をもって会計年度末の係数としています。